

フォスタリングチェンジ・プログラム 2019年度実施報告



一般社団法人 無憂樹



はじめに	01
フォスタリングチェンジ・プログラムについて	02
プログラムの概要	03
2019年度実施概要	05
実施報告	
フォスタリングチェンジ・プログラムin札幌	06
フォスタリングチェンジ・プログラムin宮城	07
フォスタリングチェンジ・プログラムin茨城	08
フォスタリングチェンジ・プログラムin千葉	09
フォスタリングチェンジ・プログラムin東京	10
フォスタリングチェンジ・プログラムin横浜	11
フォスタリングチェンジ・プログラムin山梨	12
フォスタリングチェンジ・プログラムin長野	13
フォスタリングチェンジ・プログラムin静岡	14
フォスタリングチェンジ・プログラムin三重	15
フォスタリングチェンジ・プログラムin京都	16
フォスタリングチェンジ・プログラムin大阪	17
フォスタリングチェンジ・プログラムin和歌山	18
フォスタリングチェンジ・プログラムin鳥取	19
フォスタリングチェンジ・プログラムin広島	20
フォスタリングチェンジ・プログラムin山口	21
フォスタリングチェンジ・プログラムin高知	22
フォスタリングチェンジ・プログラムin福岡	23
フォスタリングチェンジ・プログラムin久留米	24
フォスタリングチェンジ・プログラムin佐賀	25
フォスタリングチェンジ・プログラムin長崎	26
フォスタリングチェンジ・プログラムin熊本	27
ファシリテーターフォローアップミーティング	28
プログラムに関する里親の評価	29
総括 2019年度の実践と今後の課題	31

フォスタリングチェンジ・プログラムのあらたな一歩

— ファシリテーター養成コースを日本人トレーナーで開催 —

一般社団法人 無憂樹 代表 上村 宏樹

フォスタリングチェンジ・プログラムは、2016年3月に、日本では最初の養成コースが福岡において開催されました。当初より、フォスタリングチェンジ・プログラムの開発者でもあるキャシー・ブラッケビー(Kathy Blackeby)、キャロライン・ベンゴ(Caroline Bengo)の両氏が来日し、日本人ファシリテーターを養成していただいております。それから実践と研鑽を重ね、2019年3月に和歌山で開催された養成コースにおいて、キャシー、キャロラインのスーパーバイスの元、初めて日本人トレーナーでコースを開催するに至りました。その次の2019年8月福岡開催では、日本人のみで養成コースを開催し、無事22名の新たなファシリテーターに修了証をお渡しすることができました。さらに、2018年に思春期版である12+のテキストの翻訳も進め、2019年度より、12+のファシリテーター養成コースも日本人トレーナーで開催できるようになりました。このことはフォスタリングチェンジ・プログラムの普及に向けて大きな一歩だと思います。

これはひとえに、キャシー、キャロライン、そして松崎先生、上鹿渡先生、多大な助成支援をいただいた日本財団をはじめたくさんの方々のご尽力、ご協力によるもので、子どもや里親さん、社会的養護に関わる方々に対するみなさんの思いがこのような形になったのだと思います。

また、これまで各開催地が普段の大変な業務の中、フォスタリングチェンジ・プログラムについての事務局を担っていただいておりますが、2019年度から、より良いサービス提供と効率的に運営を行えるよう、一般社団法人無憂樹がフォスタリングチェンジ・プログラムの事務局機能を担わせていただくことになりました。無憂樹は、フォスタリング機関をはじめ、社会的養護に関する施設や機関への研修やコンサルなどのサービスを提供する機関で、2017年にできたばかりの小さな法人です。

2016年に児童福祉法が改正され、現在わが国の社会的養護は大きく変わろうとしており、里親制度の位置づけは非常に大きなものとなっています。その中で、養成コースやフォスタリングチェンジ・プログラムの実践の経験を通して、私はこのプログラムの果たせる役割は決して小さくはないと感じています。2020年3月に開催予定であった養成コースは、12+やコンサルテーション・デイを含め、コロナウィルスの影響で残念ながら延期になりましたが、この機にプログラムの理解をさらに深め、これまでに蓄積されてきた経験や想いを引き継ぎながら、今後のプログラムの普及に尽力していきたいと思いつつ、この第4回目の報告書をお届けさせていただきたいと思っています。



フォスタリングチェンジ・プログラムについて

早稲田大学教授・児童精神科医 上鹿渡 和宏

2016年改正児童福祉法に示された「家庭養育優先原則」を実現するために2018年7月には都道府県計画策定要領が国から提示されました。2019年度は全国の自治体でこれからの10年でどのように新しい社会的養育体制を構築するか検討され具体的な数値目標を掲げる計画が策定されています。今後代替養育については里親委託における養育の質をどう担保するかが大きな課題です。里親養育を包括的に支援するフォスタリング機関の設置と同時に個々の里親の養育スキルの向上が必要です。

フォスタリングチェンジ・プログラムは1999年ロンドン・モーズレイ病院の専門家チームによって開発された子どもが委託されている里親のための研修プログラムです。アタッチメント理論、社会的学習理論に基づき、週1回3時間、里親グループ(6~10人程度)でのセッションを12回実施します。社会的養護下の子どもの抱える課題、様々な虐待の影響に配慮した子どもの視点での理解とそれに基づく対応について学びながら実践を続けることで、子どもの行動の背景にあるニーズに気づき、対応できるようになることを目指します。里親が自分で問題を見つけるための方法や考える枠組を提供します。さらに、里親の自尊感情や自信を回復する重要性が明示されている点も特徴的です。参加者は必要な専門的知識を子どもとして、また親としての自身の経験に照らしつつ、他の養育者の経験やロールプレイ、グループ討論などを通して学び、それが確実な実践につながるように工夫されています。このプログラムでは、まず子どもとの関係の改善・向上に力を置きます。問題行動への直接的アプローチに類する実践的スキルは後で学ぶことになります。また、実施前の家庭訪問による聞き取り調査やプログラム開始前と終了時の客観的尺度を用いたの評価が組み込まれており、さらにセッション毎のアンケートも準備されています。ロンドン大学キングスカレッジのチームにより、無作為比較試験(RCT)という信頼性の高い研究方法で、このプログラムの短期的効果についての評価もなされ効果が確認されています。

日本への導入にあたっては、SOS子どもの村JAPANと福岡市が連携し、日本財団からの助成を受けて企画委員会が立ち上げられました。第1回ファシリテーター養成コースが2016年3月に福岡市で実施され20人のファシリテーターが受講し、同年5月から福岡市で日本最初の里親向けプログラムが実施されました。懸念された出席率も97%と非常に高いもので、参加者からもたいへん好評でした。本プログラムの準備・実施を通して里親支援者の専門性向上も期待

でき、個別相談においてもそれぞれに応じた助言に生かすことができることがわかりました。その後、熊本でも乳児院を会場にプログラムが実施されました。また、2017年2月には東京で第2回ファシリテーター養成コースが開催され、同年度中に全国11か所で里親向けプログラムが実施され、およそ70名の里親を対象に実施した評価によりプログラムの効果も確認されました。その後2018年3月長野県、同年8月宮城県、2019年3月和歌山県でファシリテーター養成コースが開催されました。特に和歌山での第5回養成コースでは日本人トレーナーによるファシリテーター養成コース実施へ向けてトレーナー5名の養成・認定もなされ、無事5名の日本人トレーナーが誕生しました。

ところで、これまで日本への本プログラム導入にあたってSOS子どもの村JAPANが担ってこられた重要な事務局機能を、2019年度から一般社団法人無憂樹に移行することになりました。2019年8月には福岡市で日本人トレーナーによる養成コースを初めて実施し20名の受講があり、これまでのファシリテーター養成コース修了者数は125名となりました。また、2019年度は前年度より4か所多い全国22か所でおおよそ130名を対象(養育里親以外の受講者も含む、2016年度からの総計はおおよそ340名)にプログラムが実施され、プログラム実施効果の評価についても各実施機関のご協力をいただきながら進めています。さらに、現場から要望の多い思春期版プログラム(12+)についても、日本語版パワーポイント、配布用資料、テキスト暫定版を完成させ、それらをもとに福岡市で初めて6名対象に実施し、その後熊本でも6名対象にした実施を経て表現等に修正を加えたものを、基本プログラムを2回以上実施したファシリテーターで「12+養成コース」を受講した方々に来年度より提供する予定です。さらに、本プログラムが全国に広がる中で、様々な実施体制にあってもプログラムを確実にしていただきその質を担保するためのガイドライン(暫定版)を作成し、ファシリテーター養成コースやフォローアップミーティング等で提示のうえ意見をいただき修正加筆を続けてまいりましたが、来年度初めには正式なガイドラインとして関係の皆様へ提示する予定です。

2020年4月から全国の自治体で、これまで以上に子どものために里親養育が必要とされるようになります。家庭養育への移行に携わる皆様の努力が、子どもにとっての様々な良い変化(成果)につながることを期待しています。フォスタリングチェンジは子どもと里親、そして支援者それぞれに良い変化をもたらしてくれるものです。ますます多くの地域でこのプログラムが実施されることを願っています。

フォスタリングチェンジ・プログラムの概要

SOS子どもの村JAPAN・広島国際大学 松崎佳子

フォスタリングチェンジ・プログラムは、アタッチメント理論、社会的学習理論、認知行動理論に基づき、ペアレントトレーニングの考えも取り入れて1999年にロンドンのモーズレイ病院の専門家チームによって開発されたものです。その後、現場での実践と評価を経て2011年に改訂版のマニュアルが出版され、これに基づいた無作為化比較試験(RCT)が2012年に実施されました。社会的養護下にある子どものかかえる問題、特に様々な虐待の影響に配慮した子どもの理解とそれに基づく対応について、子どもの長所に焦点をあて、育み、認証し、実践的なスキルを学び、家庭で実践するプログラムです。効果的な褒め方やアテンディング、限界設定やタイムアウトなどについて学びながら実践し、里親自身が自分で考え対応できるようになることを目指すプログラムとなっています。

プログラムの実施構成は、以下の通りである。

- 通常版
週1回3時間、里親グループでのセッションを12回(約3か月)継続。
対象者は、実際に2歳から12歳未満の里子を養育している里親12名まで。
- 思春期版
週1回3時間30分、里親グループでのセッションを12回(約3か月)継続。
対象者は、12歳以上から18歳未満の里子を養育している里親12名まで。
- 最低2名のファシリテーターが担当する。
- お茶やお菓子が用意され、温かい雰囲気のなかで実施される。

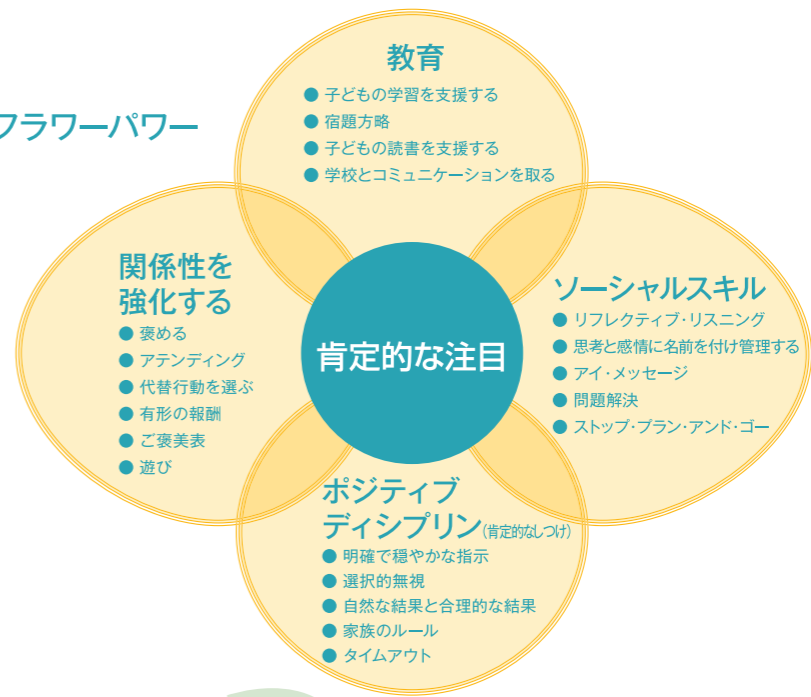
プログラム内容は、以下のフラワーパワーに示されているような4つ要素からなっている。

- 通常版
- 養育に最も必要な要素として「**温もり**」と「**観察**」が基本となり、中核に「**肯定的な注目**」がある。以下の①から④の順番でセッションが実施される。
 - ① **関係性の構築**～ほめる、アテンディング(肯定的注目)、代替行動の選択、有形のご褒美、ご褒美表
 - ② **教育**～子どもの学習の支援、宿題戦略、子どもの読書を助ける、学校との連携
 - ③ **ソーシャルスキル**～リフレクティブ・リスニング、考えと感情のラベリングと管理、アイ(私は)メッセージ、問題解決、ストップ・プラン・アンド・ゴー
 - ④ **ポジティブ・ディシプリン**(肯定的しつけ)～明確で冷静な指示、選択的無視、自然な結果と合理的な結果、家族のルール、タイムアウト
- 思春期版
- 養育に最も必要な要素として「**温もり**」と「**観察**」が基本となり、中核に「**ポジティブな世話/注目**」とともに、思春期特性への理解として**アタッチメントとレジリエンス**(回復力)がある。以下の①から④の順番でセッションが実施される。
 - ① **関係性を強化する**～褒める、1対1の時間、代替行動を選ぶ、有形の報酬、ポイント・チャート
 - ② **教育**～子どもの学習支援、読書、宿題や勉強を行うことを激励する、学校とコミュニケーション、アイ・メッセージ
 - ③ **ソーシャルスキル**～リフレクティブ・リスニング、思考と感情に名前を付け管理する、問題解決、ストップ・プラン・アンド・ゴー
 - ④ **ポジティブ・ディシプリン**(肯定的しつけ)～明確で穏やかな指示、選択的無視、自然な結果と合理的な結果、家族のルール、外出禁止、家事、検査は禁止

さらに、プログラムの特徴として以下の点があげられる。

最初にファシリテーターとなる担当者が里親宅を個別に訪問し規定の聞き取りを実施し、その情報をグループでのセッションに生かすなど、個別訪問による事前の関係づくりによってプログラムへの里親の参加・継続率が高く維持されている。各セッション終了時に里親からの評価が行われ、相互性のあるプログラムとなっている。里親は基本的に一人の子どものみを対象に行動観察、プログラムの演習・実践を施行するが、他きょうだいにも並行して応用することが可能である。また、子どもの行動やアタッチメントなどについて、事前事後の評価を行うことができる。

フォスタリング・フラワーパワー (通常版)



フォスタリング・フラワーパワー (思春期版)



2019年度フォスタリングチェンジ・プログラム実施状況の概要

SOS子どもの村JAPAN・広島国際大学 松崎佳子

日本へのFCP導入に向けてNPO法人SOS子どもの村は、2015年度より日本財団の助成を受け、学識経験者、児童相談所や里親会、施設経験者、学識経験者からなる企画委員会を立ち上げ検討してきました。2016年3月福岡においてファシリテーター養成研修を実施し、2018年度までに108名のファシリテーターが養成されています。

プログラムは、2016年度、福岡、熊本において実施され、2017年度は、11か所、そして、2018年度は、北海道から沖縄まで18か所での実施と拡がりました。2019年度は表1の通り、全国22か所での実施され、年2～3回実施した地域もあります。また、福岡と熊本で対象児を12歳以上とする思春期版が日本で初めて実施されました。詳細は各地の実施状況をご参照ください。

2019年度より、以下のように体制を変更・強化しました。
① これまでSOS子どもの村JAPANをはじめ、各地のファシリテーター養成講座実施機関で日本財団より助成を得て実施してきましたが、2019年度からFCP事務局を一般社団法人無憂樹に設置し、ファシリテーター養成講座

やフォローアップミーティング、コンサルテーションデイ等の企画、運営、連絡窓口等を一本化しました。また、これに伴い、FCP実施ガイドライン(暫定版)を作成し、ファシリテーター養成講座で提示し検討しました。

② 2018年度和歌山で実施したファシリテーター養成講座において、日本人トレーナー候補者5名が、正式に日本におけるトレーナーとして養成・認定されました。従って、2019年度は日本人トレーナーによるファシリテーター養成講座を福岡において実施し、20名のファシリテーターが誕生し、延べ128名となりました。しかし、3月東京で実施予定であったファシリテーター養成講座及びキャシー氏らによるコンサルテーションデイは新型コロナウイルス対策により、中止・延期となりました。

③ ファシリテーターのフォローアップミーティングは、東京と福岡で実施しました。ファシリテーターの専門性の強化・維持のために必要なミーティングとして位置付けています。

地域	実施時期	対象者	実施主体機関
静岡	5月～7月	6名(養育里親6名内1名養子縁組里親とW登録) ※6名スタート、諸事情により途中から1名不参加	NPO里親家庭支援センター
和歌山	5月～7月	里親女性 5名(養育里親2名、ファミリーホーム1名、養子縁組2名)	乳児院 里親支援センター
山口	5月～7月	8名(養育里親3名、ファミリーホーム1名、児童養護施設職員4名)	県子ども家庭課
福岡	5月～7月	6名(養育里親2名、ファミリーホーム3名、養育補助者1名)	こども総合相談センター・NPO法人
茨木	6月～8月 9月～11月 12月～2月	5名(養育里親4名、養子縁組里親1名) 5名(養育里親4名、養子縁組里親1名) 5名(養育里親4名、養子縁組里親1名)	子ども家庭支援センター
京都	7月～10月	4名(養育里親2名、(養子縁組1名重複)、小規模ケアGリーダー2名) ※3回目までは5名、諸事情により途中から1名不参加	里親サポートセンター
北海道	9月～11月	6名(養育里親5名、ファミリーホーム1名)	児童養護施設・子ども家庭支援センター
東京	9月～11月	5名(養育里親4名、ファミリーホーム1名)	乳児院
神奈川	9月～11月	5名(養育里親4名、ファミリーホーム1名)	一般社団法人
山梨	9月～11月	6名(養育里親5名、養子縁組1名)	児童相談所
三重	9月～11月	6名(養育里親3名、ファミリーホーム2名、親族里親1名)	児童相談センター
大阪	9月～11月	8名(養育里親6名、ファミリーホーム1名、養子縁組1名)	NPO法人里親支援機関
熊本	9月～11月	6名(養育里親6名) ※諸事情により途中から1名不参加	フォスタリングチェンジTeamくまもと
千葉	9月～12月	5名(養育里親4名、ファミリーホーム1名)	児童養護施設
長野	9月～12月	6名(養育里親4名、養子縁組1名、施設職員1名)	乳児院
広島	9月～12月	5名(養育里親3名、ファミリーホーム1名、養子縁組1名) ※諸事情により途中から1名不参加	子ども家庭センター
福岡	9月～12月	3名(養育里親2名、地域小規模児童養護施設担当職員1名)	乳児院 児童養護施設
鳥取	10月～12月	8名(養育里親4名、ファミリーホーム運営者1名、ファミリーホーム支援員2名)	県
長崎	10月～12月	4名(養育里親 4名)	里親育成センター
佐賀	12月～2月	8名(養育里親7名内1組ご夫婦、養子里親1名)	児童相談所
高知	12月～2月	3組4名(養育里親3名、養子縁組1名)	ベビーホーム 里親家庭サポートセンター
宮城	1月～3月	8名(養育里親7名、ファミリーホーム1名)	NPO法人

フォスタリングチェンジ・プログラム in 札幌

児童養護施設 興正学園 里親支援専門相談員 小野 実佐(臨床心理士・公認心理師)
児童養護施設 興正学園 里親トレーナー 佐藤 慧(臨床心理士・公認心理師)

- 【実施主体】 社会福祉法人 常徳会 児童養護施設 興正学園
- 【実施期間】 9月13日～11月29日(毎週金曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 社会福祉法人 常徳会 児童養護施設 興正学園 図書館
- 【参加里親】 6名(養育里親5名、ファミリーホーム1名)
- 【参加体制】 出席率98.6%
ファシリテーター2名、アシスタント1名、オブザーバー4名
(札幌市児童相談所里親担当職員、札幌市内児童養護施設・乳児院里親支援専門相談員)

実施状況

- 今回で2回目の実施である。参加者は、自ら希望した方や里子との関係で困り感を持っている方を中心に、札幌市児童相談所里親担当と協議の上で、選定している。
- 児童相談所里親担当と各施設里親支援専門相談員がオブザーバーとして参加し、里親家庭を支えている市内の支援機関が、共にグループを支えている。
- セッション7実施の様子を上鹿渡先生に見学していただき、スーパーバイズを受けた。

プログラム時に工夫したこと

- 里子を理解すると共に、里親自身とその家庭への理解を深めていくように努めた。
- 里親がそれぞれ持っている素養にFTが気づき、それを里親自身が気づき、養育の自信へと繋がるように声をかけ続けた。そうする中でグループ全体で各々の個性を共有しながら励まし合うことができた。
- 参加者からそれぞれの課題や困っていることについてグループ内で聞かれたとき、他の参加者の意見や考えを発言してもらいながら、色々な視点から理解を深めるように促した。

まとめと課題

- 参加者の多くは里子との関係改善を感じており、プログラムの効果を実感できていた。
- 参加者同士の関係が深まったことで、横のつながりの中で支え合う様子が見られている。また、FTと参加者の関係も同時に深まり、市内の他里親支援機関と共に、さらに連携をスムーズに行うことが出来ている。
- 参加者の中には、セッションの中盤ですでに里子との関係改善が見られる方もおり、セッション後半まで改善のために宿題を続けられる方と、進度の差が見られた。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 宮城

所属 子どもの村東北 川村 玲香
所属 子どもの村東北 佐藤 桃子

- 【実施主体】 子どもの村東北
- 【実施期間】 2019年12月21日～2020年4月終了予定(毎週日曜日 9:30～12:30)
- 【実施場所】 子どもの村東北
- 【参加里親】 8名(養育里親7名、ファミリーホーム1名)
出席率90%



実施状況

子どもの村東北において初めての実施。

プログラム時に工夫したこと

プログラムの説明などは家庭訪問時に説明はしたもののどのようなものなのかは里親さんたちには当初ピンとこなかったようであったが回を重ねていく中でグループとしての色がよい形でできてきている。数名の里親同士が知り合いということもあり守秘義務を確認し安心安全の場となるように努めた。家の中で大変だったことなどをシェアし、それに対し共感やアドバイスし合う場面も多く見られた。これはその場が参加者にとり今まで他ではない場になったと思う。ファシリテーター同士の意思の疎通を大事にすることも重要である。参加者が話しやすい雰囲気を心がけている。

まとめと課題

プログラム開始が12月ということもあり年末年始などプログラム間が空いてしまったことは今回の課題である。今回はその点に気を付けて開催したい。「いくら頑張っても誰も褒めてくれないけれどこのプログラムの場ではみんな褒めてくれるから来るのが楽しみ」と素直に気持ちを話して下さる里親さんとの信頼関係を大事にしていきたいと思う。親として人として尊敬してやまない里親さんから学ぶことが多くファシリテーターとしての資質向上をめざしたい。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 茨城

子ども家庭支援センター「どうしん」 笹川 寛・西野 聡美

- 【実施主体】 子ども家庭支援センター「どうしん」
- 【実施期間】 ①6月5日～8月28日(毎週水曜日) 開始時間10:00～終了時間13:00
②9月4日～11月20日(毎週水曜日) 開始時間10:00～終了時間13:00
③12月7日～2月29日(毎週土曜日) 開始時間13:00～終了時間16:00
- 【実施場所】 ①・③子ども家庭支援センター「どうしん」グループワーク室 (土浦市)
②シェアオフィスSSS西野ビル 貸会議室 (水戸市)
- 【参加里親】 ①5名(養育里親4名、養子縁組里親1名) 出席率90.0%
②5名(養育里親4名、養子縁組里親1名) 出席率96.6%
③5名(養育里親4名、養子縁組里親1名)
- 【参加体制】 ファシリテーター2名
- 【フォローアップ】 2020年3月11日(水)10:00～12:00(2018・2019受講者) 実施予定

実施状況

グループは各回5名と少人数でしたが、地形が縦に長い県であるため、開催地域を県南と県北に分け、曜日についても平日仕事をしている方向けに土曜日開催し、年間3クール実施しました。

また、2クール目では児童養護施設の里親支援専門相談員2名がオブザーバーとして参加され、施設と里親の相互理解に繋がる良い機会であったと思われます。

出席については、体調不良での欠席も見られましたが、FCP受講に対する里親の意欲は高く、補講の依頼を受けるほど非常に熱心に積極的に取り組んでくださいました。

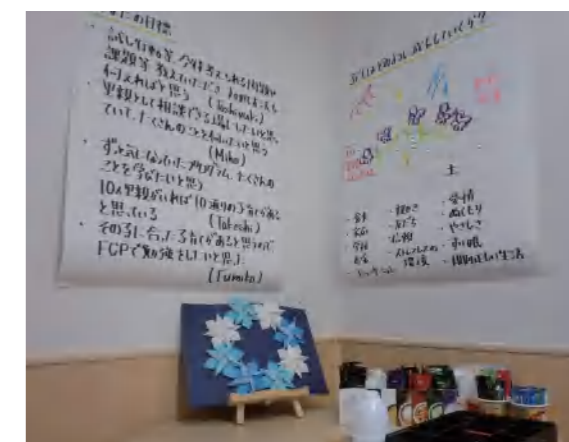
プログラム時に工夫したこと

開催地域を分けて開催したものの、遠い方では1時間半以上移動に時間を要する方もおり、少しでもリラックスして参加していただけるよう、お茶菓子やウェルカムボードに配慮し、セッション開始時間までにファシリテーターよりお声掛けするなど、些細なことでも里親の変化に対応できるよう気を配りました。

まとめと課題

今回初の試みとなった2クール目の貸会議室でのセッション実施は、準備物の忘れ物が無いよう細心の注意を払う必要があり、ファシリテーターとしてはとても苦慮し、今後の課題とも感じました。

今後はフォローアップにも力を入れて対応していけるよう、個別・グループ共に計画していきたいと思えます。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 千葉

児童養護施設 房総双葉学園 里親支援専門相談員 野村 恵美
 児童養護施設 晴香園 里親支援専門相談員 門馬 真之
 児童養護施設 子山ホーム 里親支援専門相談員 柴田 弘子
 児童養護施設 ほうゆう・キッズホーム 馬場 敏

- 【実施主体】 千葉県児童福祉施設協議会 里親支援専門相談員会
- 【実施期間】 9月26日～12月12日(毎週木曜日) 10時～13時
- 【実施場所】 バルひろば☆ちば
- 【参加里親】 8名(養育里親4名、養子縁組1、自立援助ホームスタッフ2名、施設職員1名)
出席率78.6%
- 【参加体制】 ファシリテーター4名、補助スタッフ第1期・2期受講生がローテーションで参加
- 【フォローアップ】 2019年9月19日(2017年・2018年度生合同) 2020年3月12日(2019年度生)



実施状況

- 前回と同じく生協バルシステムの施設をお借りして開催。今期3年目となり開催時期並びに曜日の定着に繋がった。
- 過去の受講生が補助スタッフとして今回も参加下さり、ロールプレイの手本や受講生の相手役として活躍頂いた。



プログラム時に工夫したこと

- 受講対象者を自立援助ホームスタッフまで広げた。里親に自立援助ホームを知って頂く良い機会となった。

まとめと課題

- 今回で実施3回目となり、FCP受講希望者が減ってきた。プログラムの広報と案内方法を検討する必要があると感じた。
- 養育している子どもの年齢層に幅が生じていると里親同士の共通した話題を見つける事が難しい様子。

フォスタリングチェンジ・プログラム in 東京

社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院 長田 淳子
 社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院 河村 千代
 一般社団法人無憂樹 上村 宏樹

- 【実施主体】 社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院
- 【実施期間】 2019年9月5日～11月28日(毎週木曜日) 10時～13時 ※11/21はお休み
- 【実施場所】 社会福祉法人二葉保育園 法人本部会議室
- 【参加里親】 5名(養育里親4名、ファミリーホーム1名)
出席率83%
- 【参加体制】 ファシリテーター3名 スタッフ1～2名、オブザーバー2名

実施状況

養育里親4名、ファミリーホーム1名の5名でスタート。参加者同士が顔見知りだという関係性も事前にあったため、関係づくりもスムーズにできた。

プログラム時に工夫したこと

少人数であることを活かし、「家庭での実践」を明確に設定して持ち帰ることができるようにし、フィードバックも時間をかけて、より丁寧におこなった。

まとめと課題

【まとめ】
 回を重ねることで、里親自身の対応が変わればこどもの行動も変わるという手ごたえを感じられたようだ。
 遅刻が多かった受講者の方も、最終回間近には、ほぼ時間内に参加されるようになり、修了式では「(スライドにあるイラストのように)みんなで手をつないで輪になって終わらしましょう!」と提案され、感動的な最終回を迎えることができた。

また、受講者から「パパ講座」を開催してほしいとの要望があり、急遽土曜日に1回3時間の体験版を開催することができた。

【課題】

- 安定して受講希望者を募ることができるよう広報や実施日時の工夫。
- 受講者は里母が多く、「パパ講座」を開催してほしいとの要望がある。継続した実施に向けての検討。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 横浜

こどもみらい横浜 福島 里美・村田 和木・中山 貴詞

- 【実施主体】 こどもみらい横浜
- 【実施期間】 9月12日～11月28日(毎週木曜日) 10時～13時
- 【実施場所】 横浜市西部児童相談所4階談話室
- 【参加里親】 7名(養育里親 2名、養子縁組5名)
出席率96%(インフルエンザ、健康診断)
- 【参加体制】 ファシリテーター3名 福島(臨床心理士) 村田(社会福祉士) 中山(里親)

実施状況

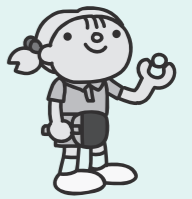
2回目なので、落ち着いてできた。
小学校高学年の子どもに、12+を参考にした。
参加者の評価は、前回同様非常に高く、横浜市こども家庭課や、4か所の児童相談所にもFCPの重要性を再認識してもらった。
8名の公募に対して、5名の応募だったため、個別に2名に参加を依頼した。一方で、FCPの大々的なカラー紹介を掲載した機関誌を発刊したすぐあとに、1人申込希望があった(開催3日前の申込のため断った)。
FCP受講対象者44組に対し17名が参加。
FCP+(中高生)の受講対象者は20組。
もっと広くFCPを知ってもらうため、6月土曜日に2週連続のお試し体験講座を実施予定。
FCPに興味はあるが、12日間は長いと感じている人や、平日働いている人に「家での宿題」も含めて体験してもらいたいと考えている。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 山梨

乳児院ひまわり 大原 恵美子
児童養護施設 くずはの森 田村 由美子

- 【実施主体】 山梨県中央児童相談所 子育て・発達の里 乳児院ひまわり
- 【実施期間】 9月12日～11月21日 10時～13時
- 【実施場所】 山梨県中央児童相談所 会議室
- 【参加里親】 6名(養育里親5名、養子縁組1名)
出席率83.2%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名 補助職員名
- 【フォローアップ】 3月中旬予定



実施状況

今年度も試行であったため、ファシリテーターと補助職員で対象児童の年齢や受託歴などを考慮して条件を満たす里親に声をかけ、参加里親を決定した。今年度は、養育里親5名、養子縁組里親1名の計6名で行なった。
また、3月中旬にアフターセッションを予定している。

プログラム時に工夫したこと

全セッション、楽しくリラックスして参加ができるよう、メンバー間のコミュニケーションや温かい雰囲気作りを重視した。
また、セッションの中に登場する馴染みのないカタカナ用語については、手製のパネルを用意し、具体例を提示して補足するようにした。

まとめと課題

公募をせず、個々の里親に連絡し参加者を募ったため、参加者の選定が難しかった。また共働きの里親も増える中で、全セッションへの参加が難しいと断る里親も多かった。そんな中今回、2回目となる里親に参加してもらい、その里親からは「2回目、より理解ができた。これから活用できると思う。」との感想があった。全体的に積極的な里親に恵まれ、グループワークや討論の際も大いに盛り上がりを見せた。時折、話の流れが内容から脱線してしまう里親もいたが、セッション自体は毎回順調に進んだ。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 長野

うえだみなみ乳児院 桐山 由香
軽井沢学園 金子 悠一郎

- 【実施主体】 うえだみなみ乳児院・軽井沢学園
- 【実施期間】 9月27日～12月20日(毎週金曜日) 10時～13時
- 【実施場所】 うえだみなみ乳児院 上田原事務所
- 【参加里親】 6名(養育里親4名、養子縁組1名、施設職員1名)
出席率92%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名、補助者3名

実施状況

プログラムの序盤より、参加者から積極的な発言があり、参加者の積極的な姿勢によってグループが早期に作られ、支えられた。また、参加者一人ひとりの発言がグループに気づきを与えて下さり、プログラムの内容が深まっていった。

フィードバックの際には、参加者同士、それぞれの話を大事にし、みんなで考えていった。

プログラム時に工夫したこと

今回も事前に準備リストや役割分担表を作成し、効率よく準備が行えるようにした。また、毎週水曜日には、ファシリテーターと補助者で集まり、スライド1枚1枚の内容及び準備品等の再確認を行った。



時間内にセッションを終えることができない状況が続いたため、「今日の流れ」で目安の時間を提示した。

まとめと課題

セッション、参加者から積極的な発言があり、ディスカッションも活発に行われ、参加者一人ひとりそれぞれの立場から意見を出して下さったことで、大変意義のある内容となっていった。

今後の課題としては、カタカナ言葉や直訳すぎる表現等が挙げられる。また、例やロールプレイで使う場面設定があまり日本ではイメージしにくいという意見もあった。日本になじみやすい表記や表現、説明にすることで、取り組みやすくなるものとする。場面設定については、里親さんの意見を取り入れるとイメージしやすいのではないかと考える。

今回も時間内に終えることがほとんどできなかった。知識提供の部分を簡潔に説明し、参加者から意見を出していただき、一緒に考えることをさらに丁寧にやっていきたい。

今後も質の向上を目指し、ファシリテーターとして自己研鑽に努めていく。

フォスタリングチェンジ・プログラム in 静岡

静岡福祉大学こども学科准教授 上野 永子
NPO法人静岡市里親家庭支援センター 佐野 多恵子・トマジ 里絵

- 【実施主体】 NPO法人静岡市里親家庭支援センター
- 【実施期間】 5月10日～7月19日(毎週金曜日) 9:30～12:30<全12回>
- 【実施場所】 静岡市郊外のログハウス(里親所有)
- 【参加里親】 6名(養育里親6名 内1名養子縁組里親とW登録)
*6名スタート、諸事情により途中から1名不参加
2019年度生4名がオブザーバーとして参加(当番制)
- 【参加体制】 ファシリテーター3名、アシスタント2名
- 【フォローアップ】 個別面談 2019年10月～11月(2018年度生)
セッション 2019年10月4日、2020年1月24日 全2回(2019年度生)

実施状況

対象児童(幼児・学童)を養育する里親へ案内し、6名の申し込みがあった。静岡市は赤ちゃんから自立までの研修が体系化されており、委託後すぐの【スタート研修】に始まり、乳幼児の【安心感の輪】、小学校中学年までの【FCP】、小学校高学年からは自立を目指した【CCP(キャリアアカウンティング・プログラム)】と、里親は養育中の子どもたちの成長に合わせて受講していくことから、里親の研修への期待と意欲は自然と高まっている。

プログラム時に工夫したこと

今年度は特別支援級(知的)へ通う中2を養育する里親へ打診し、迷いながらも参加を決めた方がいた。イレギュラーの年齢(中2)を養育する参加者に対して細やかな対応を心掛けた。中でも家庭での実践で、毎回年令と理解力のギャップを埋める課題選びや方略の捉え方などを丁寧に扱った。その結果、里母は養育の中で、1.実年齢 2.実際の理解力 3.子どもへの働きかけの3点において、徐々に対応が合致していった。初めての試みであったが、子どもの実年齢にとらわれず、知的理解や里母子関係に添ったアセスメントを行ったことで十分に効果が表れ、

母子関係においても目に見える形で改善が見られた。今後にも期待ができる。

まとめと課題

今年度の参加者は自身の養育感を持っていた。その為、里親仲間の意見よりも方略を身につけることに意欲的で、対ファシリテーターの横に一直線でセッションが始まった。しかしセッションを重ねるごとに、自然とまわりの声に耳を傾け、仲間同士の活発なやり取りが増え、気持ちも姿勢も見事に半円の並びでセッションを終了できた。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 三重

三重県児童相談センター 中勢児童相談所 岩樋 祥子
総務・家庭児童支援室 川北 恵

- 【実施主体】 三重県児童相談センター
- 【実施期間】 9月13日～11月29日(毎週金曜日) 10時～13時
- 【実施場所】 三重県 伊賀庁舎 会議室
- 【参加里親】 6名 (養育里親3名、ファミリーホーム2名、親族里親1名)
出席率85%
- 【参加体制】 ファシリテーター 2名
スタッフ 4名(児童家庭支援センター職員・里親支援専門相談員)

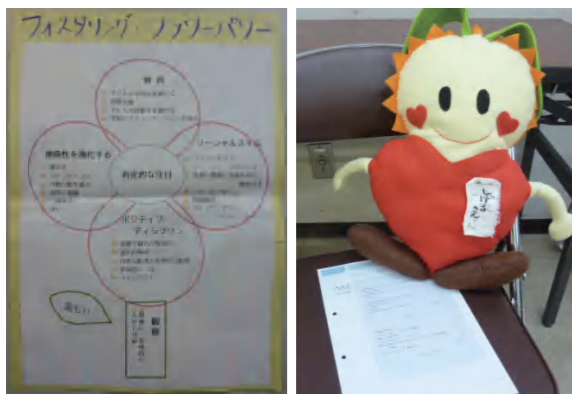


実施状況

今年度は実施される場所を変え、フォスタリングチェンジ・プログラム未受講者の多い地域に会場を設け開催した。会場までの距離等には配慮することができたが、委託児童の学校行事や家庭の事情等が重なり出席率が85%と伸びなかったのは残念だった。だが、多くの受講者には子どもの変化を感じてもらうことができ、また受講者同志のつながりも深まった。

*変化した子どもの行動 (評価表より抜粋)

- 長時間すねることが減った。
- よい行動を自ら行おうとするようになった。
- きょうだい間で仲良く過ごす時間が増えた。
- 自分で考えて行動できるようになった。
- 素直にいろいろと話してくれるようになった。



プログラム時に工夫したこと

プログラム全体を通して『ファシリテーターは、里親の手本となるように』を心がけた。里親が子どもに接するように聞く、ほめる。この「ほめる」という点については、特に重点をおき、里親自身に「ほめられると嬉しい」という気持ちを感じてもらった。

カタカナ等の用語については、後のセッションに出てきた時に、思い出してもらいやすいように壁に掲示した。

まとめ プログラムの効果

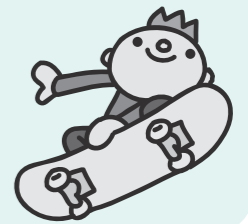
セッションを通して里親側の立場になって考えることができる貴重な機会となった。また里親にとっては「委託解除」という経験を話せる機会や場所が必要なのだと感じた。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 京都

乳児院積慶園/里親サポートセンター青い鳥 藪下 聡美
乳児院積慶園/里親サポートセンター青い鳥 武田 由

- 【実施主体】 里親サポートセンター青い鳥
- 【実施期間】 2019年7月26日～10月18日(毎週金曜日) 10:00～13:00
- 【実施場所】 積慶園別棟 保育室内
- 【参加里親】 4名(養育里親2名、(養子縁組1名重複)、小規模ケアGリーダー2名)
(3回目までは5名で開始したが、1名(縁組)が家庭の事情により中断)
出席率89.58%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名で運営



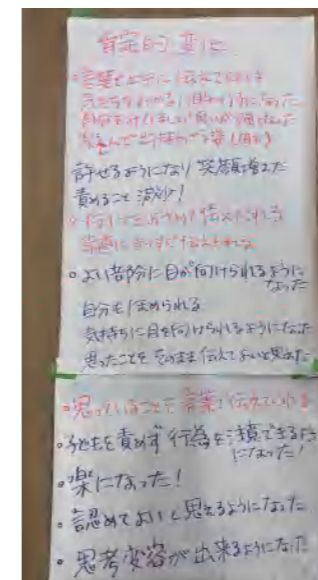
実施状況

京都市では、里親サポートセンター青い鳥と乳児院積慶園の里親支援専門相談員及び心理士で、令和元年度、初回プログラムを実施した。

プログラム時に工夫したこと

プログラムの基本姿勢を貫くのに、毎回一生懸命で、何か特別に工夫を考える余裕がないのが現実であった。

参加者を快く迎え、日々の養育を労う。参加者が勇気を持って発言された時には必ず称賛し敬意を払う。セッション中のハプニングに冷静に対処する。プログラムをマニュアルに沿って忠実に、滞りなく行い、時間調整に配慮し、終了時間を厳守する。など、基本を遵守することに精一杯であった。



まとめと課題

今回は参加者が4名と少なく、議論やグループワークのように影響するか心配されたが、家庭での実践の報告や、グループワークでの発言では、それぞれが積極的に参加され、毎回のセッションは参加者の安定と積極性に支えられたといえる。

私たちファシリテーターは、初回という緊張感と合わせて、セッション前の準備や予習時間が不足していることから、まだ自信を持って取り組むことが難しく、終了と同時に反省することが毎回であった。

大変な養育困難感を抱えている里親にとって、このプログラムに楽しく参加し、学びを有効に、日々の実践に活かされるためには、毎回のセッションで、心が落ち着き、楽しめる余裕が生まれるような、工夫が必要になると考えられる。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 大阪

所属 実施者 里親子支援機関えがお 牧野 博子・辻本 真波
大阪西本願寺常照園 高橋 宗近
ガーデンエル 浅田 みのり

- 【実施主体】 NPO法人 里親子支援機関えがお
- 【実施期間】 9月13日～11月29日(毎週金曜日) 9:30～12:30
- 【実施場所】 門真市民プラザ
- 【参加里親】 8名(養育里親6名、ファミリーホーム1名、養子縁組1名)
出席率95.6%(セッション9以降は7名参加で計算)
- 【参加体制】 ファシリ4名、スタッフ3名、保育2名



プログラム時に工夫したこと

- 温かい雰囲気を常に保てるような心遣いを行いました。
- フィードバックで家庭内実践の発表にて、前回の振り返りを模造紙で確認し丁寧にを行いました。
- ファシリが里親ということで、里親目線での伝え方を大事にしながら、それに甘えずできるだけ視野を広げる努力をおこないました。
- 大阪独自の修了証を作成し、最後の日は、手作りのお菓子、手料理を用意しながら、盛大にお祝いしました。
- 次回の打ち合わせ時にスタッフも一緒に会議に参加することで、俯瞰的視点を大事にしました。

課題点

- 欠席者に対して、後日フォローアップを家庭訪問等で丁寧に行ったが、ファシリに負担がかかり、やり方を検討する必要性がありました。
- 今回ファシリを3人で交代しながら担当分担をおこなったが、変わりすぎても、固定しすぎてもうまくいかないことがわかりました。打ち合わせで次回内容を熟読したう



えで担当分担をする必要がありました。

まとめ

大阪府において、今年度初めての開催でした。大阪府でおこなった特徴としては、ファシリが里親さんと施設職員で構成されているという点です。ファシリが受講者と同じ里親というところで『私たちは…』という伝え方ができ、「受講者と同じ目線でファシリのお話を聞くことができた」と共感してもらえる値が高かったと感じています。また、里親目線、施設目線という違った視点からの切り口で、多様な考え方を取り入れるヒントになったのも大きなメリットでした。

初期セッションの段階で、養育の困難さを涙ながらにお話されていた方や、すべて受講できる自信がないと吐露されていた方たちが、回を追うごとに表情が晴れ晴れとするようになりました。12回終わった後には、「受けて良かった」「気持ちが軽くなった」と言って下さり、またみんなで集まりたい、フォローアップしたいとの声が挙がりました。話しあいの結果、今後3カ月ごとに集まりの場を設定していく等、アフターフォローに力を入れていきます。

フォスタリングチェンジ・プログラム in 和歌山

和歌山つくし会和歌山乳児院 山本 恵理子
里親支援センター「なでしこ」 奥田 景

- 【実施主体】 和歌山乳児院/里親支援センターなでしこ
- 【実施期間】 5月9日～7月25日(毎週木曜日) 10時から13時まで
- 【実施場所】 児童養護施設 こばと学園
- 【参加里親】 里親女性 5名(養育里親2名、ファミリーホーム1名、養子縁組2名)
出席率 92%(全参加1名、1回欠席3名、2回欠席1名)
- 【参加体制】 ファシリテーター2名、スタッフ2名
- 【フォローアップ】 10月3日、2月27日(予定)



実施状況

4月のお便りと共にFCP募集のチラシを送付した。反応は薄く、期間内に参加者が集まらなかったが、個別の声かけで参加者を募った。その後、家庭訪問を4月中旬ごろから実施した。

プログラム時に工夫したこと

- 初回は全員にウェルカムカードを作成。
- 飲み物やお菓子は参加者のリクエストを聞きながら購入し、暑くなる時期にはクーラーボックスを使用し、冷えた物を提供した。
- セッション7で、参加者の頑張りを讃えて、中間の“頑張ったで賞”を授与した。
- 欠席の対応として、乳児院に来院してもらい2時間ほど補習セッションを行った。
- グループでの共有に少し抵抗がある方もいらっしゃり、セッション後に個別でお話を聞く機会を設けることもあった。



まとめと課題

- 控え目な参加者が多く、ファシリテーターからの問いかけに反応が薄いため、発言を引き出すことに苦戦した。
- 積極的に参加するようなグループではないものの、セッションが進むにつれ、少しずつ距離が縮まっていったように感じた。
- 回数を重ねるごとに参加者の服装が変化し、カジュアルから少しずつおしゃれを楽しむような服装に変わり、このプログラムを楽しみにして来てくれている印象を受けた。
- 自分の困りごとや問題行動等ぼんやりしていた部分が、FCPを受けることによって明確化し、何が問題かということ認識できた方もいた。
- 最終のセッション12では、残念ながら全員出席が叶わず、全員集合の写真が撮ることができなかったため、初回や中間あたりに全員集合写真を撮影すべきであった。

フォスタリングチェンジ・プログラム in 鳥取

里親支援とっとり 所長 遠藤 信彦
 因伯子供学園 里親支援専門相談員 林原 年彦

- 【実施主体】 鳥取県
- 【実施期間】 10月3日～12月19日(毎週木曜日) 10時～13時40分(休憩40分はさむ)
- 【実施場所】 名和公民館(鳥取県西伯郡大山町御来屋)
- 【参加里親】 8名(養育里親5名、ファミリーホーム運営者1名、養子縁組0名、ファミリーホーム支援員2名)
 (実施会場の近くの施設の里親支援専門相談員が、スタッフ兼参加者として参加した。
 出席率84.2%(早期中断者を外すと95.1%)

実施状況

- 事前アンケートの結果、該当里親31世帯の内9名の里親の参加希望あり(アンケート回収率は50%)、開催時期・曜日・時間帯について、アンケートの回答内容を反映した。西部の里親が多かったため西部を会場とした。(会場の公民館の館長の配慮で、減免していただき、会場使用料が無料となった)

プログラム時に工夫したこと

- 各々の評価表の記述内容(特にコメントの欄)をきちんと取り上げ、次回の開始時に説明し、参加者の了承を得て、必要があれば取り入れ、試みた。
- 鳥取県からの修了証について、県担当課に『極力、里親が今後の励みになるよう、ステータスとして感じられるような配慮をいただきたい』と要望したところ、鳥取県知事の印付きの修了証を用意して下さった。受講者はとても喜ばれた。

まとめ

本プログラムは今年度鳥取県として初めての実施となった。評価表などからみても、プログラムは受講者の養育の悩みやストレスの削減の一助となり、養育の上での様々な方法・気づき・工夫に繋がっていったように感じる。ファシリテーターとして、内容の理解、説明不足な点は多々あったが、里親さんの温かさ・ユーモアに助けられることがたくさんあった。

その他

- セッション12の終盤、参加者の年長者より『ファシリテーターに文句がいいたい。時間がほしい』と言われ、時間を設けたところ『我々ばかりほめてもらったが、我々から、ファシリテーターを褒めたい』ということで、皆から一言ずついただいた。プログラムの精神が伝わっていたのか、と感じた一コマだった。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 広島

広島県西部こども家庭センター 宮浦 孝子・吉田 暁子
 広島修道院きずなの家 前田 佳代

- 【実施主体】 広島県西部こども家庭センター
- 【実施期間】 9月18日～12月4日(毎週水曜日) 10時～13時
- 【実施場所】 広島県西部こども家庭センター
- 【参加里親】 5名(養育里親3名、ファミリーホーム1名、養子縁組1名)
 ※内1名は、途中で委託解除となりグループを離脱。
 出席率98%
- 【参加体制】 ファシリテーター3名(広島県西部こども家庭センター2名、広島修道院きずなの家1名)、補助者1～2名

実施状況

- 里親15世帯、ファミリーホーム3ヶ所に案内を送付。申し込みのあった5名が参加。
- 参加者は熱意を持って積極的に取り組まれた。回を重ねるにつれてお互いのことや養育中の子どもについての理解が進み、グループの中に共感、賞賛、助言しあうエンバウメントの雰囲気が育まれた。同時に自身の課題(子の様子に気づきすぎる、要求水準が高すぎる)に気づく様子もみられた。
- セッション3,7で松崎佳子先生のSVをいただいた。ファシリテーターと参加者の親和性が高すぎるとの指摘があり、その後はファシリテーターの態度を修正した。また、グループの凝集性が高まった段階で委託解除による離脱があり、その扱いやその後のグループ運営についてファシリテーターが悩んだが、先生のご助言により対応することができた。

プログラム時に工夫したこと

- セッションの前日(半日)、翌日(半日)を準備とふりかえりにあてて、テキストの読み込み、理解、練習に多くの時間を割いた。
- 茶菓、音楽の他に、季節の花を生けたりアロマオイルを炊いたりして温かい居心地の良い雰囲気を心がけた。
- プログラムを普及、定着させるために、児童養護施設や他の児童相談所に見学参加を呼びかけた。多くの希望があったがグループの凝集性を維持するために見学者は1セッションにつき1名と絞った。

まとめと課題

- 参加者の個性がグループの中でバランスよく発揮され、終始和やかな雰囲気で行進。セッション11のごみ袋のワーク以外は概ね高い評価を得た。参加者からは、自身について『気持ちに余裕が持てるようになった』『自分が無理と感じた時、人に任せられるようになった』、子供について『痲痺が減った』『褒められることで注目されようとするようになった』等の報告があった。
- もともと少人数だった上に離脱があつて4名となった。グループワークの質を保つためにやむを得ず補助者が参加して補った回もあったが、効果的なグループワークには最低6名の参加者が必要だった。
- 社会的養護、中途養育に特化した本プログラムは、委託後早い段階でどの里親にも提供し、里親養育の基本として理解いただくことが不調予防に繋がると感じた。
- 管轄が広く皆に利便性の良い会場を設定するのが難しいこと、就労している里親が多く平日の毎週参加が難しいことから参加者の確保には工夫が必要。来年度の実施については検討中。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 山口

ライクホームはるか 新谷 敏郎
防府海北園 藤井 有紀

- 【実施主体】 山口県こども家庭課
- 【実施期間】 5月10日～7月19日(毎週金曜日) 10時～13時
- 【実施場所】 共楽園総合子育て支援センター(周南市久米)
- 【参加里親】 8名(養育里親3名、ファミリーホーム1名、児童養護施設職員4名)
出席率93.8%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名、スタッフ2名(里親支援専門相談員)、
県担当者1名

実施状況

昨年度同様、運営上の経費は県が予算化し、募集も県こども家庭課がおこなった。昨年度は全セッション終了が年度末であったため、今年度は年度初めに実施することとした。前年度、県中央部で実施したので、今年度は東部での実施とした。ファシリテーターは、県から業務委託された施設より派遣されている。

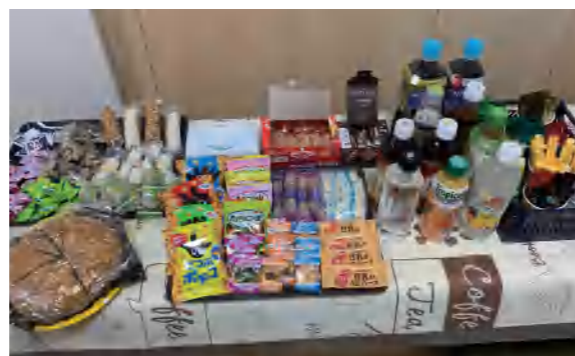
5月スタートのため、事前家庭訪問は前年度セッション実施期間中におこなった。託児の設置がないため、夏休み前までに終了となるよう、セッション11、12を一日で実施した。10月と1月には、アフターセッションを実施した。



プログラム時に工夫したこと

参加者が安心して、心地よく参加できるよう、室温、採光、スライドや掲示物の見やすさ、雰囲気等に配慮した。着

席位置は、セッションでのペア作り等を考慮し、毎回決めている。飲み物や食べ物は、種類や量を豊富に用意している。昨年度に引き続きスタッフ手作りのおやつも用意。



まとめ

プログラム参加による肯定的変化は、欠席なく、家庭での実践に十分に取り組まれた方ほど見られ、それは参加者自身も感じておられる。終了時には参加者同士の繋がりが強くなり、アフターセッション終了後もまた定期的に集まりたいという声があった。

課題としては、施設職員の参加が多く、勤務形態により、対象児童と関わる時間を確保できず、家庭での実践に取り組むことが難しかったということから、施設職員の参加割合の検討、参加申込者へのプログラムの特徴の説明と事前訪問での家庭状況や勤務形態の把握を今まで以上にしっかりとおこなうことの必要性を感じている。

フォスタリングチェンジ・プログラム in 高知

所属 高知聖園ベビーホーム 里親家庭サポートセンター結いの実 実施者 楠瀬 理歩
所属 高知県地域福祉部 児童家庭課児童福祉担当 実施者 村山 真一

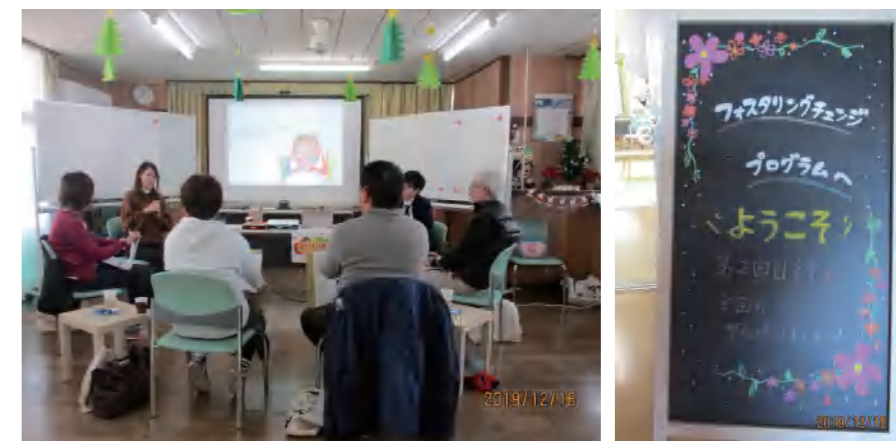
- 【実施主体】 高知聖園ベビーホーム 里親家庭サポートセンター結いの実
- 【実施期間】 2019年12月3日～2020年2月25日(毎週火曜日) 12時30分～15時30分
- 【実施場所】 高知聖園ベビーホーム北館
- 【参加里親】 3組4名(養育里親3名、養子縁組1名)
出席率96%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名、スタッフ1名、オブザーバー1名
- 【フォローアップ】 2020年5月実施予定

実施状況

初めての実施でプログラムの認知度、理解度がなかったため、委託児童の年齢等考慮して事前に選出した里親に声をかけ、結いの実のスタッフで体験会を開催した。さらにスーパーバイザーを講師に迎え、県内の全里親と関係機関に向けそれぞれ説明会兼体験会を開催した上で、改めて声を掛け参加者を募った。

プログラム時に工夫したこと

部屋の装飾を季節に合わせて手作りし、ウェルカムボードの文面も毎回変えるなど歓迎の気持ちが伝わるよう工夫した。クリスマスにはファシリテーター手作りのお菓子も提供した。また、サイドテーブルを用意し、飲食をしやすきようにすることで、リラックスしてプログラムを受けられるようにした。



まとめと課題

参加者の積極的な姿勢に助けられ、4名という少人数の中、意見交換もしながら、時間通りプログラムを終えることができている。まだ実施途中だが、毎回プログラム評価は高く、「子どもの肯定的な面に注目できるようになってきた」という実感や、「里親自身の考え方に変化やゆとりが生まれている」というフィードバックが得られている。

課題としては、共働き家庭が多く、毎週平日昼間に3時間の参加ができる里親が少ないため、次年度以降の参加者集めが難しいと思われる。プログラムに対する認知度もまだ低いと、説明会兼体験会を継続して開催していく予定である。

フォスタリングチェンジ・プログラム in 福岡

福岡市子ども総合相談センターえがお館 高橋 三津子(里親対応専門員)・高橋 恵子(里親対応専門員)
SOS子どもの村JAPAN 松崎 佳子(理事、臨床心理士)・羽田 優(公認心理師)

- 【実施主体】 福岡市子ども総合相談センターえがお館・SOS子どもの村JAPAN
- 【実施期間】 5月11日～7月26日(毎週金曜日) 10時～13時30分
- 【実施場所】 福岡市子ども総合相談センターえがお館 家族療法室
- 【参加里親】 6名(養育里親2名、ファミリーホーム3名、養育補助者1名) 出席率94%
- 【参加体制】 ファシリテーター4名、オブザーバー1名
- 【フォローアップ】 2019年受講生対象:2019年11月29日
2016年～2019年受講生対象:2020年2月14日(予定)

実施状況

福岡市では全国で初めて思春期版のFCP12+を実施した。3月上旬に参加者の募集をはじめ、6名の方とプログラムを開始。うち2名は、過去に通常版を受講されていた。予定通り全セッション実施でき、6名全員に修了証をお渡しした。

プログラム時に工夫したこと

1月から7月までの間にスライドやマニュアル、ハンドアウトを読み合わせ、内容の確認や日本語訳の検討、時間配分の調整などを行い、実施に向けた準備に取り組んだ。

まとめと課題

参加された里親さんの中にはすでにいろいろな方法を試してきたがうまくいかなかったという方もいらっしゃった。そのため、スキルを実践することに対して消極的になりやすく、子どもと向かい合うことへの不安があるようだった。しかし、その養育の難しさをグループで共有したり、里親さん同士で励まし合い、アドバイスし合うことで最後には「救われた」という感想もいただいた。過去に通常版を受講された2名は、通常版受講の時よりも理解がスムーズで、家庭での実践にもうまく取り組まれていた。このことから、通常版を受講された方が数年後に思春期版を受講するという2段階の受講をすることで、より理解を深めたり、効果を実感しやすいことが考えられる。



欠席や早退で最後は4名でしたが他の2名にも後日お会いし、みなさんに修了証をお渡しできました。

その他の活動

2019年5月NHKハートフォーラム「新しい絆の作り方」にて、過去の受講生にご協力いただきFCPの紹介としてアテンディングのデモンストレーションを行った。参加者からは、「雰囲気がとてもよかった」「ぜひ広がってほしい」など好評であった。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 久留米

清心慈愛園 原田 三津子(里親支援専門相談員)・田中 亜弥(臨床心理士)
清心乳児園 内山 悠子(臨床心理士)・青柳 礼奈(里親支援専門相談員)・山口 柚里香(臨床心理士)

- 【実施主体】 社会福祉法人 慈愛会 清心乳児園(乳児院)・清心慈愛園(児童養護施設)
- 【実施期間】 9月17日～12月10日(毎週火曜日) 10時～13時/最終日10時～15時
- 【実施場所】 社会福祉法人 慈愛会 清心乳児園(心理棟『ひだまり』)
- 【参加里親】 3名(養育里親2名、地域小規模児童養護施設担当職員1名) 出席率86%
※4名でスタートしたが、#7で1人リタイア
- 【参加体制】 ファシリテーター5名、スタッフ1名
- 【フォローアップ】 2020年3月実施予定

実施状況

令和元年は養育里親3名(内2名は養子縁組間近)、地域小規模児童養護施設の担当職員1名の計4名で実施。

これまでの2回は5月～7月にかけて実施していましたが、7月になると台風で中止せざる負えない状況が続き、今年度は9月～12月に実施時期を変更し、予備日を設定しました。参加者の予定が重なり1回中止にしましたが、予備日ははじめからチラシに案内していたため、参加者の了解を得て問題なく実施することが出来ました。

プログラム時に工夫したこと

今年度は初めてファシリテーターのローテーション制を導入。メインファシリテーターを2名とし、他のスタッフは資料配布や板書、記録などを担当しました。

また、少人数の参加者ということもあり、質問に丁寧に答える、参加者の様子を見て復習を入れるなどを行い、より充実した研修になるよう工夫しました。

まとめと課題

プログラムの案内の方法、面接の際の説明内容、欠席時のフォローの方法、スタッフのローテーション制による情報の共有など、今回もいくつかの課題が見えました。参加者によって工夫すべき点も変わっていくため、スタッフ間の情報共有や連携が大切であり、打ち合わせや振り返りを丁寧に行っていきたいと思います。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 佐賀



児童養護施設 洗心寮 小川 健太郎(里親支援専門相談員)
 児童養護施設 済昭園 石橋 みどり(里親支援専門相談員)
 児童養護施設 慈光園 松尾 直樹(里親支援専門相談員)
 乳児院 みどり園 野口 裕美子(里親支援専門相談員)

- 【実施主体】 佐賀県中央児童相談所 佐賀県里親支援専門相談員
- 【実施期間】 2019年12月3日~2020年2月25日(毎週火曜日) 開始時間10~13時
 年末年始休み、祝日は曜日をずらし開催(1日)
- 【実施場所】 佐賀市青少年センター(バルーンミュージアム)
- 【参加里親】 8名(養育里親7名内1組ご夫婦、養子里親1名) 出席率:91%
- 【参加体制】 オブザーバー児相里親班、里親支援専門相談員2名、ファシリテーター4名

実施状況

- 実施3か月前、各地区サロンにてFCP開催告知と同時にアテンディングを体験して頂く。その後、児相より委託書類郵送時に同封の上、各受託里親へ郵送。
- 受託児童の年齢差があったので、セッション前半は低年齢受託の方が実践しやすく、小学生受託の方は物足りなさを感じられている様子でしたが、褒める・アテンディングのスキルから学習の支援に入ることで、褒めることがこんなにも子どものやる気につながるのかと驚き・実感・納得され、より熱心にスキル習得されていた。
- 回を重ねるごとに通常の家訪問(児相、里親sw)では言いにくいような困り事なども発言されるようになり、他の里親からの意見・アドバイスなども自然に出て仲間意識、一体感が出てきた。

工夫した点

- 場所:施設のご厚意で使用料・駐車場無料。明るく清潔で参加者に大好評。
- 事前訪問時、好みの飲食物を伺い準備。



- 季節に応じた雰囲気づくり(クリスマス、正月)、手作りおやつ、プレゼント。
- 事前訪問でロールプレイが苦手な方もおり組み合わせに配慮した。また、即実践は難しいからこそロールプレイ=練習と思ってやってみましょう!ここでの失敗OK!などと言葉がけロールプレイがないと残念との意見がでるまで意識が変わり楽しめるようになった。
- 季節に応じた雰囲気づくり(クリスマス、正月)、手作りおやつ、プレゼント。
- 事前訪問でロールプレイが苦手な方もおり組み合わせに配慮した。また、即実践は難しいからこそロールプレイ=練習と思ってやってみましょう!ここでの失敗OK!などと言葉がけロールプレイがないと残念との意見がでるまで意識が変わり楽しめるようになった。

反省・今後の課題

- 12月開始のため、感染症や体調崩した方、子どもが病気などで欠席の場合もあり、実施時期再検討。
- その場の質問に戸惑ってしまうこともあったが、FT間で助け合い乗り切った。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 長崎

社会福祉法人 光と緑の園 乳児院 実施者 三浦 奈利子
 向陽寮 実施者 田添 貴子

- 【実施主体】 長崎県里親育成センター すくすく
- 【実施期間】 令和元年10月2日~12月18日(毎週水曜日) 10:00~13:00
- 【実施場所】 社会福祉法人 光と緑の園 おひさまハウス 研修室
- 【参加里親】 4名(養育里親 4名) 出席率92%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名(向陽寮田添里親SW 乳児院三浦里親SW)
 他3名(すくすく専任・事務員・ローテーションで里親SW1名)
 オブザーバー:向陽寮心理士・里親SW・児相から里親支援員・児童家庭支援センター職員など
- 【フォローアップ】 2019年6月18日:2020年1月21日(2回)

実施状況

4月に年間計画を立てる時点で10月2日から毎週水曜日実施を決定し6月に開催案内を送付。
 当初7名(1夫妻)の希望があった。
 7月中に家庭訪問日程調整を行い8、9月で5世帯実施した。9月に3名(1夫妻)の辞退があり最終的に4名での開催となった。開始時間を9:30としていたが、初回のグループの決まりを作成する時点で、遠方からの参加者もいたので10:00からに変更した。

プログラム時に工夫したこと

前回の受講者から今日の流れがわかるようにして欲しいとの意見があったので「今日の流れ」のスライドを印刷し都度会場に掲示した。ファシリテーターが2名しかいないので里親SWが出来る日は参加を頼み、里親SW中からリーダーを決め、フリップチャート書き、プリントの配布、ロールプレの相手役等を行ってもらった。リーダーの里親SWには当日早めに来てもらい打ち合わせをおこなった。
 開始時間を遅くした事で、お昼になることから休憩時間の湯茶におにぎりを準備した。

まとめと感想・課題

今回2回目だったので準備時間(二人の打ち合わせ時間)は短くなった。前回のセッションの動画は参考にできて良かった。
 セッションの前半、受講者から「内容が難しい」「宿題が大変、気が重くなる」等の感想が多く不安になることも多かったが、セッション終了時はこどもの抱えている困難さが家族に与える負担が軽減したと感じたり、里親としての自信の項目が上がっていたのでプログラムの効果を感じることができた。



フォスタリングチェンジ・プログラム in 熊本

熊本乳児院 傘 正治
NPO法人優里の会 八谷 斉
児童養護施設シオン園 山川 浩徳

- 【実施主体】 フォスタリングチェンジTeamくまもと
- 【実施期間】 令和元年9月5日～11月28日(毎週火曜日) 開始時間10:00～終了時間13:00
- 【実施場所】 熊本県中央児童相談所判定会議室
- 【参加里親】 6名(養育里親6名) → 5名
※1名の里親が年少児の頃より委託されていたお子さんの措置解除によるモチベーションの低下により、セッション4より参加できず。以降5名での実施となる
出席率93% (セッション4以降は5名参加で計算)
- 【参加体制】 ファシリテーター3名 スタッフ6名(里親支援専門相談員、NPO法人優里の会職員)

実施状況

今年度で熊本県におけるプログラム開催は4回目。今回は、福岡市に続いての思春期版プログラム(12+)の実施にチャレンジしました。

参加里親は養育里親が6名、そのうち2名は2016年度のプログラム受講者といった構成でスタートをしました。そのなかで参加した里親は、それぞれの養育の中で抱える思春期特有の行動の難しさ・課題とそれに対応する方略の使用に伴う子どもの変化を共有することで、プログラムの有用性を実際に体感されたものと思います。

共に作り上げる意識

初回のセッションでは、この思春期版プログラムが「これからのプログラム」であることをお伝えし、ファシリテーターと参加の里親と一緒に作り上げていけるようお願いをしました。



託後支援としてのFCP

今年度、フォスタリングチェンジTeamくまもとの活動として、熊本県里親協議会からの依頼を受け、協議会が実施されている「小さな勉強会」の講師として県内7か所の支部で開催されているサロンでデモンストレーションを実施しています。

また、里親制度周知のため行政からの提案により、県政番組において委託後支援としてのFCPが紹介されました。



(くまモンスマイルジャンプ!第28回)

ファシリテーター フォローアップミーティング

各地域でのプログラム実施を円滑なものにするため、養成講座終了後もファシリテーターが集まり、疑問点の解消や支援者同士の繋がりを共有する「ファシリテーターフォローアップミーティング」を実施しています。今年度は、福岡で2回、東京で2回、計4回開催されました。

東京開催

第一回目 2019年6月25日 参加者10名
参加地域:宮城、茨城、東京、神奈川、長野、山梨、三重、佐賀

第三回目 2019年11月26日 参加者13名
参加地域:青森、宮城、千葉、東京、神奈川、長野、山梨

●参加者ご感想

- いろいろな地域の人のお話を聞いてとても参考になった。
- 全国の実施状況(どこの地域、期間)をホームページなど、何かしらで共有できると良い。
- 共通の悩みが聞いてよかった。
- 今後も定期的にフォローアップミーティングを開催してほしい。
- 全セッションを分担して、さまざまな地域の方々のやり方を学びあう集いを設けも良いかもと思った。
- 次年度の予定が、早めにわかると助かる。(研修予算をたてるため)

福岡開催

第二回目 2019年9月20日 参加者16名
参加地域:山口、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分

第四回目 2020年1月14日 参加者14名
参加地域:三重、大阪、鳥取、広島、福岡、熊本、宮崎

●参加者ご感想

- 参加者の情報が事前に教えてもらえるとよい。
- 過去のフォローアップの内容や質疑が全体で共有できるとよい。
- ファシリテーターが質を担保するのに必要な研修だと思う。
- 他地域での取り組み等と照らし合わせながら実践することで、質が向上すると感じる。

コンサルテーションディ

- 2020年3月16日開催予定だった本年度のコンサルテーションディは、残念ながら新型コロナウイルスのため開催延期となりました



プログラムに関する里親の評価

受講者125名(北海道、宮城、茨城、千葉、東京、横浜、山梨、長野、静岡、三重、京都、大阪、和歌山、鳥取、広島、山口、高知、福岡、久留米、佐賀、長崎、熊本)計22か所

最も役に立つと思った考えやスキル(1人5つ回答。記入者110名)

スキル名	回答数
● 選択的無視	61名
● アテンディング	60名
● 効果的に褒める	59名
● ストップ・プラン・アンド・ゴー	43名
● ご褒美及びご褒美表	37名

子どもの行動の変化(5段階評価 1:ひどくなった⇔5:大変よくなった)

実施場所19か所の合計 対象児(記入者107名) 平均4点/5点満点

実施場所19か所の合計 きょうだい児(44名) 平均3.8点/5点満点

関係性	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもと私の距離が近くなった気がする。● 学校であったことなど自分から話してくれるようになった。 ● 話しかけてくる場面が増えた。● 素直にいろいろと正直に話してくれる様になった。 ● 子どもが里親の気持ちに対して気を配ることができるようになった。 ● 里子が甘えてくるようになった。
感情調整	<ul style="list-style-type: none"> ● 街に出ても落ち着いて行動が出来るようになった。● あまりイライラしなくなった。 ● 問題が起きて立ち直りの時間が短くなった。● 穏やかな表情になった。 ● 物に八つ当たりしなくなった。● 楽しかった、嫌だったなどの気持ちの言葉が増えた。 ● 子どものイライラ行動がエスカレートすることは少なくなった。
行動	<ul style="list-style-type: none"> ● 食事を早く食べることが出来るようになった。● 自分から進んで行動できるようになった。 ● 自分からお手伝いをしてくれるようになった。● 遊び方が変わった。 ● 自分で時間を考えて取り組めるようになった。● 褒められる行動を沢山してくれるようになった。 ● 身の回りのことをするようになった
学校	<ul style="list-style-type: none"> ● 宿題をスムーズにすることが増えた。● 宿題など進んでする。 ● 学校で力を出せるようになった。 ● 結果が悪くなるということが理解できたので宿題をするようになった。 ● 頑張っ、時間どおりに幼稚園バスに乗ろうとする。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども同士のケンカが減った。● 将来に少し目が向き始めた。● 食事の量が増え完食するようになった。 ● 考えたくないこと(自立)について話し合うときにすぐにシャットアウトなくなりました。 ● 明るくなった。● 創造力が豊かになった。● 里親自身がイライラしなくなった。 ● 子ども自身が変わったというよりは、自分自身がそれほど問題と思わなくなった。

ファシリテーター

フォローアップミーティング

里親と里子の関係性の变化(5段階評価 1:とても悪い⇔5:とても良い)

実施場所19か所の合計(記入者99名) 平均4.25点/5点

- 将来のことなどに目が向き、具体的取り組みを話す機会が持てて意外な思いを知ることができた。
- 子どもの不安を取り除いてあげることで、親子の関係が大きく改善することがわかった。
- 自分から歯ブラシを持って来るなど積極的な行動が増えた。穏やかになり、癩癩が減った。
- 里母のことが大好きになって、よく言うことを聞いてくれるようになった。こちらも穏やかに対応できるようになり、子どもの行動が不安でなくなった。
- 2歳児でもしっかり伝わり、里親の伝え方でこんなにも変わるのかとびっくりしている。なによりも里親自身が変化しており、ほめることができるようになった。
- 小さな無作法は無視できるようになった。子どもがのびのび出来ていると思う。

里親としての感じ方への影響

内省	<ul style="list-style-type: none"> ● 里親の大切さ、社会的養護の必要な子どもにとっての本当の親になりたいと思った。 ● 社会的養護の中で育ったという意識が薄れてきている原点を忘れないようにと思う。 ● 養育者としての在り方を見直すきっかけになった。
変化	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの行動の裏にある心情にも目を向けて考えるようになった。 ● 子どもも養育者もどんな気持ちでも抱いて良いということ、それを知って分かり合おうとする過程を楽しめるようになった。 ● 自分自身の感情をコントロールして里子の行動を待つことを覚えた。 ● 対応が変わると子どももどんどん変化することがわかった。信頼感が増えてきている気がする。 ● 色々な研修の中で、いちばん効果があった。子どもはもとより、家族の雰囲気が良くなった。 ● 里親の役割をより明確に位置付けてくれた。
自信	<ul style="list-style-type: none"> ● とてもわかりやすく養育をしやすくなったのでまだまだ里親をして続けていけそうだった。 ● 確かな研究・知見・蓄積に基づいた「スキル」をお教えいただき、それを実践成果を挙げたことで里親としての自信と余裕が生まれました。
仲間	<ul style="list-style-type: none"> ● 同じような困難さを共有出来て大変良かった。 ● 他のメンバーとの気持ちのシェアで自分の気持ちが楽になった。

家庭訪問を受けたことでどう役に立ったか。(複数回答)

記入者(111名)	回答数
a.全く役に立たなかった。	2名
b.コースに参加することに自信が持てた。	43名
c.里親として支援されていると感じた。	60名
d.ファシリテーターは、里親として、私が必要としていることに関心があるとわかった。	46名
e.その他(自由記述)	22名

- コースの見通しが持てた。
- 子どもたちのこと、家庭のことを知ったうえで学習が始まり楽な気分で参加できました。
- 私自身が知りたかったのに気づけていなかった課題を、ファシリテーターが気づいてくれたので、それを自分自身の課題として認識することができた
- コース開始前に、それまでの状況や現状で困っていることなどを伝えられたことで、ファシリテーターに安心感・信頼感が持てた。
- 多方面からのサポートが厚くなったと感じる。

2019年度の実践と今後の課題

SOS子どもの村JAPAN・広島国際大学 松崎 佳子

フォスタリングチェンジ・プログラム(以下FCP)は、ネグレクトや虐待が与える影響を考慮しつつ、効果的なコミュニケーション、問題解決のスキルを重視し、里親が日々の生活の中で、子どもの行動のニーズを把握し対応できるようになること、子どもとの良好な関係性の構築を目的としている研修です。2016年度、福岡と熊本2箇所での実施でスタートしたFCPは、2019年度は、22ヶ所での実施と拡がっています。

各地の報告にあるように、あたたかい雰囲気の中でプログラムが実施されるようさまざまな配慮が行われています。ウェルカムボード、季節に応じた暖かい・冷たい飲み物、お菓子の用意などです。週1回、3時間、12セッションという3か月間の研修にも関わらず、どの地域においても平均90%と高い出席率であることも特徴の一つです。里親同士の学び合いのなかで、里親が学んだことを家庭で実践し、自分で問題に対処する姿勢が育まれていくなど、グループ研修の力は大きいものがあります。しかし、実施を重ねるなかで、地域が分散して受講希望者が集まらない、共働き家庭が増えるなか、平日週一回の受講は難しいなど問題もでてきています。そうしたなか、土日の実施の検討や、デモンストレーションとしての研修体験講座、さらに参加者の配偶者向け2、3回の里親講座の企画など地域での工夫も始まっています。

また、今年度は、福岡と熊本において思春期版が実施されました。日本で初めての実施でしたので、マニュアル、プログラムPPT、ハンドアウトの検証も兼ねながらの実施でした。思春期への対応はニーズの高いものですので、2020年度からは各地で実施できるよう、思春期版ファシリテーター養成講座を3月実施予定でしたが、新型コロナウイルス対策のため延期となりました。2020年度実施希望の地域もあることから、できるだけ早期に養成講座の実施が可能となるよう検討していく予定です。

ファシリテーター養成については、これまで英国より講師を招いて養成講座を実施してきましたが、2018年度和歌山で実施したファシリテーター養成講座において、日本人トレーナー候補者5名が、正式に日本におけるトレーナーとして養成・認定されました。そのため、2019年度は日本人トレーナーによるファシリテーター養成講座を実施することができました。さらに3月に東京で実施予定でしたが、新型コロナウイルス対策により、中止・延期となりました。しかし、ファシリテーターの異動等により実施が困難な地域も出てきていることもあり、今後の展開のためには、さらにファシリテーターの養成が必要です。また、ファシリテーターの実践体験を共有し資質を向上するためのフォローアップ研修の義務化や英国講師によるコンサルテーションの設置など、FCPの

質の保証のためのシステムを構築していく必要があります。

なお、FCPの評価は、2つの方法で実施しています。一つは、各セッション終了時に当日のプログラムスキル等の理解度などについてのアンケートと、12セッション終了時にプログラム全体についての里親の評価と感想です。この結果は、報告書の29,30ページにまとめていますが、里親の自立性の向上、自信の回復、子どもとの関係がよくなったなどの感想が報告されており、非常に有効な研修であるとの手ごたえを感じています。

もう一つは、プログラムの開始前と修了後に実施している子どもの問題行動や里親と子どもの関係性などについての6種類の質問紙尺度評価です。昨年度、東京福祉大学佐藤篤司講師により2017年度受講里親72名を対象とした検証を実施し、5種類の質問紙で良好な変化が認められました(有意差 $p < .01$)。今年度は、さらに2018年度、2019年度、2020年度受講者を対象により詳細な検証方法の検討に取り組んでいるところです。

FCPは、これまでSOS子どもの村JAPANをはじめ、各地のファシリテーター養成講座実施機関で日本財団より助成を得て実施してきましたが、2019年度からFCP事務局を一般社団法人無憂樹に設置し、ファシリテーター養成講座やフォローアップミーティング、コンサルテーション等々の企画、運営、連絡窓口等を一本化するなど体制を強化しました。また、FCP実施ガイドライン(暫定版)をファシリテーターフォローアップ研修のなかで検討し、作成しました。今後も全国各地で実施されるFCPが質の保証された研修であるために、ファシリテーターのネットワークを構築していくことが必要です。

今年度各自治体で検討され発表された「あらたな社会的養育のあり方推進計画」では、自治体間の差はあるものの里親委託率の目標値が示され、フォスタリング機関の設置など家庭養護推進が計画されています。里親の増加は、里親支援と共に推進される必要があります。里親養育は、中途養育であり、愛着、関係性の構築の難しさを抱えた養育です。FCPは、それらに対して里親自身が取り組むことを支援する研修です。里親委託後研修として位置づけられ、各地で実施されることで里親養育不調の予防にもつながると考えています。

FCPの日本導入及び実施に関し、多大な助成支援をいただいている日本財団に感謝申し上げます

発行 2020年3月
 一般社団法人 無憂樹
 〒160 - 0023
 東京都新宿区西新宿7-4-7 イマス浜田ビル5階
 TEL : 03-6869-0192 FAX : 03-6869-0228
 MAIL : infomuyuju@gmail.com

<http://muyoujyu.com>